

「脊髄損傷のリハビリテーション（理解編）」 セミナー報告

平成 28 年 6 月 30 日（木）、神奈川
リハビリテーション病院にて「脊髄損傷
のリハビリテーション（理解編）」セミ
ナーが行われました。脊髄損傷のリハビリ
テーションに関する基礎的な知識を習得
し、理解を深めることを目的とするこの
セミナーは、医療職や介護職など毎回多
くの方にご参加いただいております。今
回も医療職や PT・OT などのセラピスト
の方など、約 30 名の方に
ご参加いただきました。（写真 1）



写真 1 講義の様子

今回のセミナーでは、リハビリテーション医師、泌尿器科医師、看護師、ソーシャル
ワーカー、職能科職員よりそれぞれ、脊髄損傷の概要やリハビリテーション、支援などの
基礎的な内容についてお話をさせていただきました。職能科からは、障害者雇用に関する
法律・制度の確認から、障害者雇用を取り巻く現状や、通勤が困難な場合などに考えられ
る在宅就労等、多様化する働き方の紹介を中心にお話をさせていただきました。また、近
年増加傾向にあると言われる、高齢頸髄損傷の方への支援についても、現在職能科で実施
している訓練内容の紹介を交えてお伝えしました。

講義の中では、実際の在宅就労者の生活を映した動画をご覧いただきましたが、受講生
の皆様からは「日常生活と職業生活の関連性が参考になった」など、就労のうえで日常生
活や生活管理が重要であることを実感したというお声をいただきました。

重度身体障がい者をはじめとした通勤困難な方、高齢の脊髄損傷の方たちの中には、「働
きたいけど仕事なんてできるのだろうか？」「退院してからどう過ごしていけばいいのだ
ろう」など、職業生活や地域での生活に不安を持たれている方も多いためと思われま
す。そのような方たちに向けた情報提供として、医療の現場や地域で支援に携わっている参加者の
皆様にご参考いただければ、また連携のきっかけにできれば…と思いお話をさせていた
だきました。参加者の方からは「より具体的な支援方法、訓練内容を知りたい」といったお
声も多くいただきましたので、今後のセミナー等に活かしていきたいと思っております。

（植西 佑香里）

七沢自立支援ホームの利用者さんへの支援

七沢自立支援ホーム（旧七沢更生ライトホーム、6月に名称変更、新福祉棟へ移転）は、神奈川県総合リハビリテーションセンターの中にある身体障害者の支援施設です。医学的リハを継続しながら、社会リハとして社会生活力を高める支援プログラムを提供しています。（写真2）



写真2 新福祉棟

職能科では、施設配置職員基準外で1名配置され、新規就労や職場復帰を目指す利用者さんに対して、職業リハ支援を提供しています。

【参考事例】

脳出血を発症され、急性期・回復期リハビリテーション病院での加療、老人保健施設利用の後、七沢自立支援ホームに入所。右片麻痺と失語症への機能回復訓練として理学・作業・言語療法を行い（医学的リハ）、単身生活を目指した一般交通機関利用訓練・調理訓練・宿泊実習訓練・学習グループ訓練を行い、住居設定・ホームヘルパーと訪問看護の調整などの支援を受け（社会リハ）、職能科では職能評価・個別作業訓練を踏まえて復職調整を行い、リハビリ出勤を経て復職をされました（職業リハ）。

（松元 健）

※詳細は七沢自立支援ホームのホームページをご参照ください。

平成 28 年度就労支援の実績		就職・復職者の人数	
職場内リハビリテーション実施人数	2016年4月～2016年7月の累計	新規就労	4名
		復職	16名
	5名		

模擬職場～封入作業の紹介～

職能科のグループ訓練「模擬職場」では、入院・外来患者さん及び七沢自立支援ホームの利用者さんを対象に、障がいの自己理解を深めたり、障がい作業にどのように影響するのかを気づいていただくことを目的に、実際の仕事に近い形で訓練を行っています。今回は、模擬職場で行う作業のひとつである「封入作業」についてご紹介いたします。

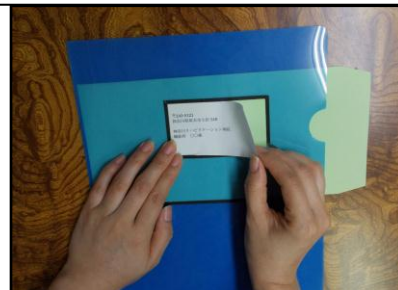


写真3 宛名ラベル貼り

神奈川県総合リハビリテーションセンターでは、定期的に研修等のご案内を各施設や事業所宛にお送りしています。その際の封筒の宛名貼付、内容物の封入、完成品の納品などを、研修を主催する当センター内部署からの依頼として模擬職場で受注し、作業を行っています。

模擬職場利用者の方は作業を通して、自身の強み、苦手な部分の発見や、代償手段の獲得などご自身の障がいの自己理解を深めていきます。例えば、正しい位置に宛名シールを貼る、綺麗に三つ折りをするなど、一連の作業は丁寧さや正確性を要するため、治具を使用（写真3）するなど、作業をする上で様々な工夫を試行します。また、作業量も多いことから、耐久性や疲労感のコントロールも重要です。納品の段階では利用者同士がサポートしあって納品先となる部署への電話連絡を行い、直接納品に伺うことで取引先との接し方を体験、確認します。

模擬職場では様々な作業を行います。利用者の方が自身の障がいについて「こんな影響があるんだな」「こうすれば上手くいくのか！」など、色々な視点で発見したり、工夫の実践ができるよう、作業内容や方法を今後も検討していきたいと思っております。

（林 航平）